

アスリート委員会の要望書に対する回答について

2019年9月19日（木）にアスリート委員会委員長の高平慎士氏が持参した要望書を受け、日本陸連として各要望に対して下記の通り回答いたしました。要望書提出の際の出席者は下記の通りです。

今回の事態を深く反省しお詫びするとともに、アスリート委員会からの要望を含め、今後の再発防止のための最善を尽くす所存です。

記

出席者：	高平 慎士	アスリート委員会 委員長
	尾縣 貢	専務理事
	麻場 一徳	理事・強化委員会 委員長
	山崎 一彦	強化委員会 ディレクター
	風間 明	事務局 局長

要望に対する回答

1. 右代選手への経緯説明
専務理事名の書面をもって、直接説明の機会を設ける。
2. 当該条項の認識の有無に対する説明
エリアチャンピオンに関するルールは理解していた。ただし、過去の状況からもアジア選手権で優勝する日本人選手のレベルが対象外となるという想定はしていなかったため、現状の選考基準を残す結果となった。内定及び決定に至った選考基準について、強化委員会や、最終的な承認機関である理事会においてもそのリスクを指摘できなかったことは、参加資格の原文も合わせた共有ができていなかったことによって、チェック機能が十分に働かなかったことが原因と考える。
3. 選考要項作成プロセスの開示と改善策の提示
これまで、強化委員会で原案を作成し、法制委員会や関係部署でチェックを受けた上で、理事会に提出、承認を受けるプロセスを踏んできたが、2019年12月の理事会以降で諮る日本代表選考要項に関しては、理事会提出前に現役競技者以外のアスリート委員会委員も招聘し、双方で確認し合い、競技者の不利益が発生しないように改善する。
4. 選考要項を作成する場へのアスリート委員会出席の承認
2019年12月の理事会以降で諮る日本代表選考要項に関しては、選考要項作成段階で現役競技者以外のアスリート委員会委員も招聘し、競技者側の観点からの意見も参考にしつつ、競技者にとってより明確な選考基準を作成する。
5. 危機管理対策室の設置
専務理事主導で、年内を目標に危機管理体制の再構築を図り、決定事項についてはアスリート委員会に報告する。
6. IAAFからの重要な情報は翻訳、承認を経て日本陸連内で共有するルールの確立
事務局長主導で、年内を目標に見直しを図り、決定事項についてはアスリート委員会に報告する。国際大会の参加資格については、日本陸連のみならず、競技者や関係者に共有できる体制を整える。
7. IAAFへ参加資格の明瞭化を要望
今回の件についても要望は行ったが、改めて世界選手権におけるエントリープロセスの問題点を整理した上で、国際大会の参加資格について再検討がなされるための働きかけを引き続き行う。

以上